

富山湾における鯨類の記録（2016年）

著者	南部 久男，田島 木綿子，山田 格
雑誌名	富山市科学博物館研究報告
号	41
ページ	67-70
発行年	2017-06-20
URL	http://repo.tsm.toyama.toyama.jp/?action=repository_uri&item_id=1064

短 報

富山湾における鯨類の記録 (2016年)*

南部 久男¹⁾, 田島 木綿子²⁾, 山田 格²⁾

¹⁾ 富山市科学博物館 〒939-8084 富山市西中野町一丁目8-31

²⁾ 国立科学博物館動物研究部

〒305-0005 茨城県つくば市天久保4-1-1

Records of marine mammals in Toyama Bay, Sea of Japan, during the year 2016.

Hisao Nambu¹⁾, Yuko Tajima²⁾
and Tadasu K. Yamada²⁾

¹⁾ Toyama Science Museum, 1-8-31 Nishinakano-machi, Toyama-shi, Toyama 939-8084, Japan

²⁾ National Museum of Nature and Science, Department of Zoology; 4-1-1 Amakubo, Tsukuba-shi, Ibaraki 305-0005

はじめに

富山湾（富山県側）の鯨類や鰭脚類については筆者らにより、2001年から漂着調査等が継続的に行なわれている（南部, 2009 ; 南部ら, 2002, 2003, 2004, 2005, 2006, 2007, 2008, 2010, 2011, 2012, 2013, 2015, 2016 ; 関ら, 2005）。本稿では2016年に富山湾で確認された鯨類について報告する。

方法

鯨類の漂着は、情報を得次第、現地で体長の計測等や写真撮影を行った。

結果と考察

2016年に富山湾で確認した鯨類はマイルカ科のカマイルカ *Lagenorhynchus obliquidens* が漂着5例5個体と同科ハナゴンドウ *Grampus griseus* の漂着が1例1個体であった。

カマイルカとハナゴンドウの漂着記録を、(1)発見日、(2)発見者、(3)場所・状況、(4)計測値と状態、の順に記す。

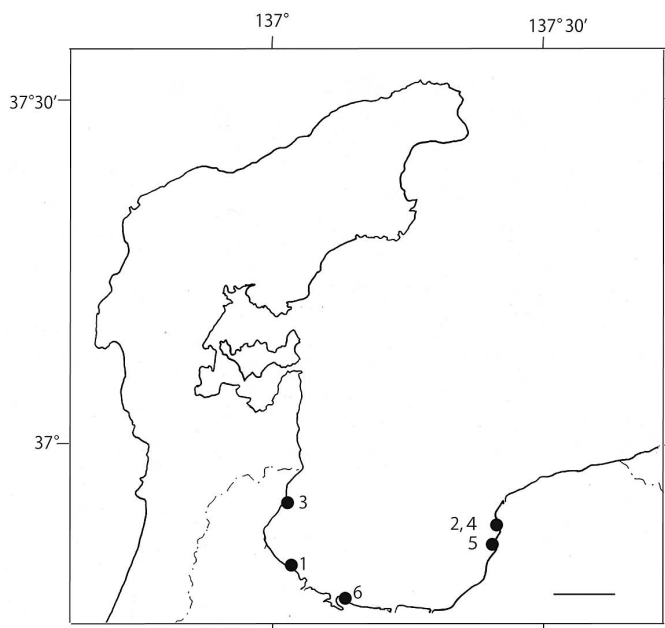


図1 鯨類の確認地点

1, 高岡市太田; 2, 4黒部市山立野; 3, 氷見市小境; 5, 魚津市経田; 6, 射水市海老江。バーは10 km.

1. カマイルカ *Lagenorhynchus obliquidens*

1 例目

- (1) 2016年5月8日
- (2) 海岸を清掃中の市民発見
- (3) 高岡市太田雨松太枝浜（図1-1）
- (4) 5月9日現地調査。体長182 cm以上（吻、尾の先欠損）で、やせた個体であった（図2A）。雌雄不明。

2 例目

- (1) 2016年5月10日
- (2) 住民発見
- (3) 黒部市山立野（図1-2）。波打ち際のテトラポッドの上に横たわる。
- (4) 5月11日南部現地調査。波高く近寄れず。カマイルカ。オス。全長1 m 90 cm以上、体重80 kg（5月12日、黒部河川事務所入善海岸出張所による計測）。吻は損傷し、腹部には大きな穴が開いていた（図2B）。

3 例目

- (1) 2016年5月21日
- (2) 住民発見
- (3) 氷見市小境（図1-3）。波打ち際に横たわる。
- (4) 5月22日、南部現地調査。体長218 cm。オス。皮膚の一部剥がれる（図2C）。

* 富山市科学博物館研究業績第515号

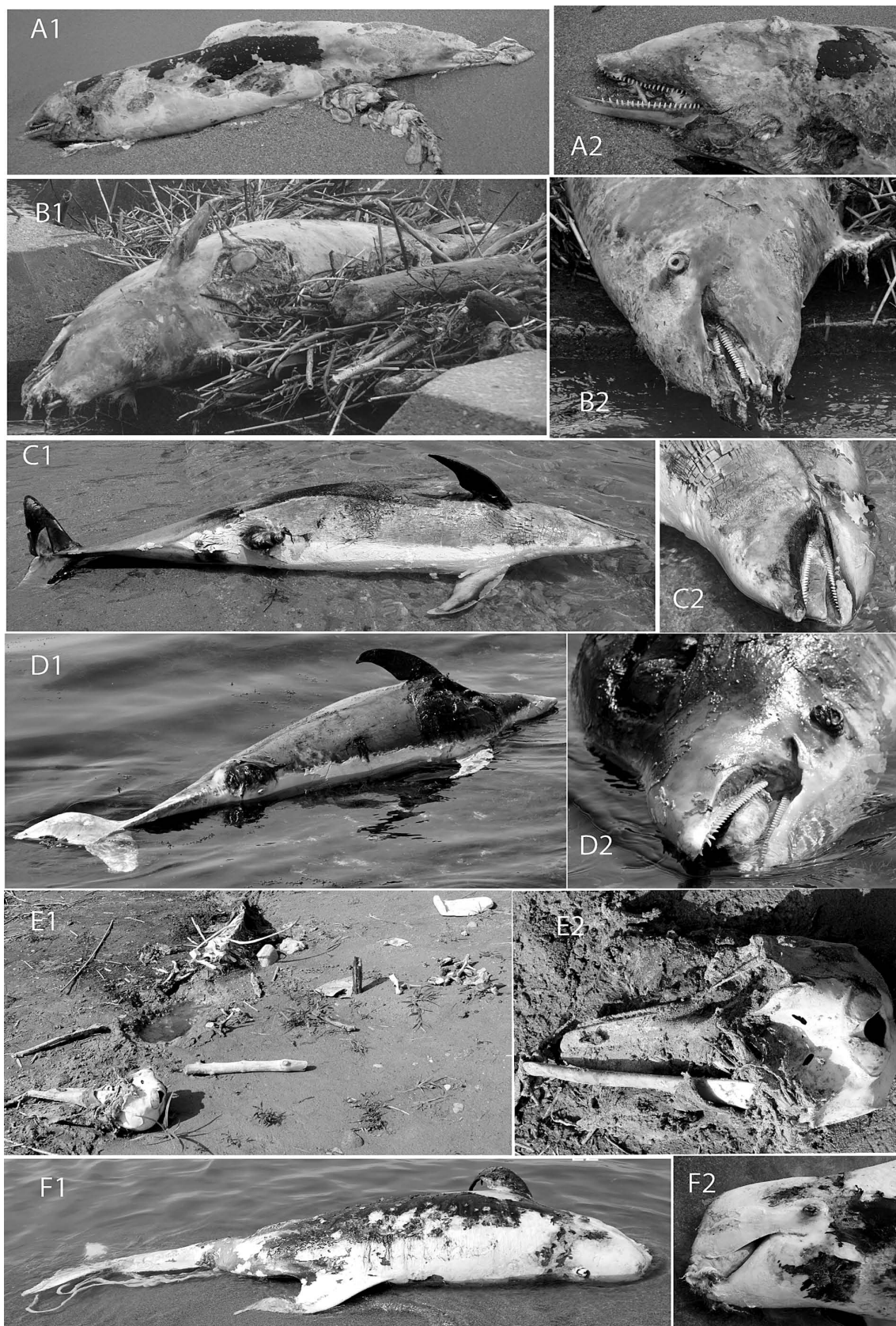


図2 富山湾に漂着したカマイルカ（A～E）とハナゴンドウ（F）。

A, 高岡市太田雨晴, 2016年5月9日撮影。B, オス, 黒部市山立野, 2016年5月10日撮影。C, オス, 氷見市中田, 2016年5月11日撮影。D, メス, 黒部市山立野, 2016年5月22日撮影。A～Dの1は腹面側, 2は頭部。E, 魚津市経田, 2016年8月11日, 1の左下は頭骨, 中央上は脊柱の一部・肋骨, 中央右は肩甲骨といくつかの脊椎, 2は頭骨と右下顎骨。F, 射水市海老江, 2016年6月11日撮影, 1は背面側で, 2は頭部。写真は全て南部久男撮影。

4 例目

- (1) 2016年5月22日
- (2) 住民発見
- (3) 黒部市山立野（図1-4）. 2例目と同じ海岸. コンクリート護岸の波打ち際に横たわる.
- (4) 5月23日南部現地調査. 体長178 cm. メス. 腐敗が進む（図2D）.

5 例目

- (1) 2016年6月2日
- (2) 住民発見
- (3) 魚津市経田（図1-5）.
- (4) 現地調査は8月11日に南部が行った.すでに白骨化したイルカ1頭分の頭骨, 脊椎と肋骨, 肩胛骨等が散乱していた（図2E）. 頭骨長は38 cmであった. 6月2日に同じ場所で市民に撮影された個体はカマイルカであり, 皮膚の一部が剥がれていたものの, 体型は保たれていた. 同じ場所で白骨化したものと考えられる.

2. ハナゴンドウ *Grampus griseus*

1 例目

- (1) 2016年6月11日
- (2) 住民発見
- (3) 射水市海老江（図1-6）. 海岸の波打ち際に横たわる.
- (4) 6月11日南部現地調査. ハナゴンドウ. 体長273 cm. 内蔵が飛び出し, 皮膚は剥げる（図2F）.

2016年は2種の鯨類, カマイルカとハナゴンドウが確認されたが, 両種とも富山湾では既知種である.

富山湾では筆者らの調査から, カマイルカは12月～6月に確認され, 漂着は5～6月に多く, 今回もその範囲内であった. また, 2016年2月3日には富山市四方西岩瀬沖でカマイルカ2頭が目撃されており（富山市科学博物館ボランティア桃花鳥の会, 2017）, 実際には漂着時期よりもさらに早い時期から富山湾に来遊していたと思われる.

ハナゴンドウの富山湾での漂着記録は少なく, 現在まで黒部市（2004年6月15日, 死体漂着, 体長252 cm）, 氷見市（2006年6月15日, 死体漂着; 2007年6月17日死体漂着, 体長201.5 cmのオス）, 魚津市（2011年3月14日, 体長201.7 cmのオス）の4例4個体の記録がある（南部ら, 2005, 2007, 2008, 2012; 田島ら, 2012）. 確認月は3月と6月であり, 今回も6月であったことから6月に比較的漂着が多いと言える. しかし, 2009年11月22日には七尾市観音崎南東約7.5 km（富山湾）で100頭ほどの群れが第九管区海上保安部のヘリコプターで目撃されていることから（石川ら, 2013）, 富山湾へは不定期に来遊して

いる可能性がある. また, 今回の個体は, 過去の漂着個体と比較し, 最も体長が大きかった.

謝辞

調査にご協力いただいた, 富山県高岡土木センター海岸班, 国土交通省北陸地方整備局黒部河川事務所入善海岸出張所, 氷見市教育委員会西尾正輝氏, 貴重な情報をご提供いただいた魚津水族館門田信幸氏に心よりお礼申し上げます.

文献

- 石川 創・後藤睦夫・茂越敏弘, 2013. 日本沿岸のストランディングレコード（1901～2012）. 下関鯨類研究室報告No. 1, 314pp.
- 南部久男, 2009. 富山湾における鯨類の記録（2008）. 富山市科学博物館研究報告, (32): 115-116.
- 南部久男・稲村 修・田島木綿子・倉持利明・山田 格, 2002. 富山湾における鯨類（Cetaceans）の記録（2001年）. 富山市科学文化センター研究報告, (25): 129-132.
- 南部久男・石川 創・山田 格・台藏正一・大田希生, 2007. 富山湾における鯨類の記録（2006年）. 富山市科学文化センター研究報告, (30): 63-68.
- 南部久男・石川 創・山田 格・田島木綿子・谷田部明子・台藏正一・大田希生, 2008. 富山湾における鯨類の記録（2007年）. 富山市科学文化センター研究報告, (31): 99-102.
- 南部久男・真柄真実・栗原 望・山田 格・関 東雄・台藏正一・石川雄士, 2010. 富山湾における鯨類の記録（2009年）. 富山市科学博物館研究報告, (33): 105-108.
- 南部久男・西岡 満・関谷伸一・山田 格・太田希生, 2004. 富山湾における鯨類の記録（2003年）. 富山市科学文化センター研究報告, (27): 75-78.
- 南部久男・西岡 満・田中 豊・太田希生, 2003. 富山湾における鯨類・ウミガメ類の記録（2002年）. 富山市科学文化センター研究報告, (26): 145-147.
- 南部久男・関 東雄・真柄真実・山田 格・太田希生・藤田将人, 2011. 富山湾における鯨類の記録（2010年）. 富山市科学博物館研究報告, (34): 141-144.
- 南部久男・関 東雄・田島木綿子・山田 格, 2016. 富山湾における海棲哺乳類の記録（2015年）. 富山市科学博物館研究報告, (40): 99-101.
- 南部久男・関 東雄・山田 格, 2015. 富山湾における海棲哺乳類の記録（2014年）. 富山市科学博物館研究報告, (39): 55-60.

南部久男・田島木綿子・新井上巳・山田 格・田中 豊・大田希生, 2005. 富山湾における鯨類の記録 (2004年). 富山市科学文化センター研究報告, (28) : 91-94.

南部久男・田島木綿子・山田 格, 2012. 富山湾における鯨類の記録 (2011年). 富山市科学博物館研究報告, (35) : 103-105.

南部久男・田島木綿子・山田 格, 2013. 富山湾における鯨類の記録 (2012年). 富山市科学博物館研究報告, (37) : 109-110.

南部久男・山田 格, 2006. 富山湾における鯨類の記録 (2005年). 富山市科学文化センター研究報告, (29) : 113-114.

田島木綿子・山田 格・南部久男, 2012. 富山県魚津市に漂着したハナゴンドウ (*Grampus griseus*) 富山市科学博物館研究報告, (35) : 107-108.

富山市科学博物館ボランティア桃花鳥の会, 2017. 富山県の脊椎動物の記録. 富山市科学博物館研究報告, (41) : 121-128.

関 東雄・南部久男・山田 格・石川 創, 2005. 富山湾の海上における鯨類の目撃記録. 富山市科学文化センター研究報告, (28) : 113-122.

<追記>

富山市科学博物館の研究報告37号 (2013年発行) での鯨類の報告に謝りがあったため訂正する。

富山市科学博物館研究報告表紙及びP. 11のタイトル (誤) 富山県魚津市に漂着したカマイルカの剖検 (正) 富山県富山市に漂着したカマイルカの剖検